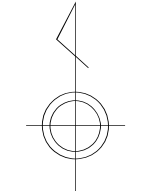




OE-47 -4	OE-48 -3	OE-48 -4
OE-57 -2	OE-58 -1	OE-58 -2
OE-57 -4	OE-58 -3	OE-58 -4



【注】
 ① 本図は、建築物のエネルギー消費量を削減するための施策の効果を評価するためのツールであり、実際のエネルギー消費量は、建築物の構造、設備、運用状況、気象条件などによって大きく異なる場合があります。
 ② 本図は、建築物のエネルギー消費量を削減するための施策の効果を評価するためのツールであり、実際のエネルギー消費量は、建築物の構造、設備、運用状況、気象条件などによって大きく異なる場合があります。
 ③ 本図は、建築物のエネルギー消費量を削減するための施策の効果を評価するためのツールであり、実際のエネルギー消費量は、建築物の構造、設備、運用状況、気象条件などによって大きく異なる場合があります。

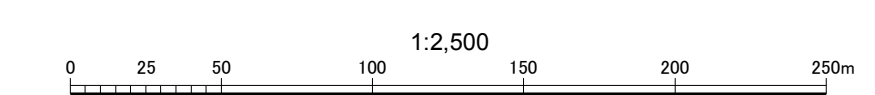
【表】

項目	データ項目	年度
下水運台帳	管線・マンホール設備情報	平成23年度
	管線・マンホール設備情報	平成28年度
水道データ	水道メータ設置場所情報	平成23年度
	水道使用量情報	平成28年度
基本地形図	地形図データ	平成23年度
	地形図データ	平成28年度
下水データ	下水流量(ポンプ増・処理場)	平成23年度
	下水流量(ポンプ増・処理場)	平成28年度

【凡例】

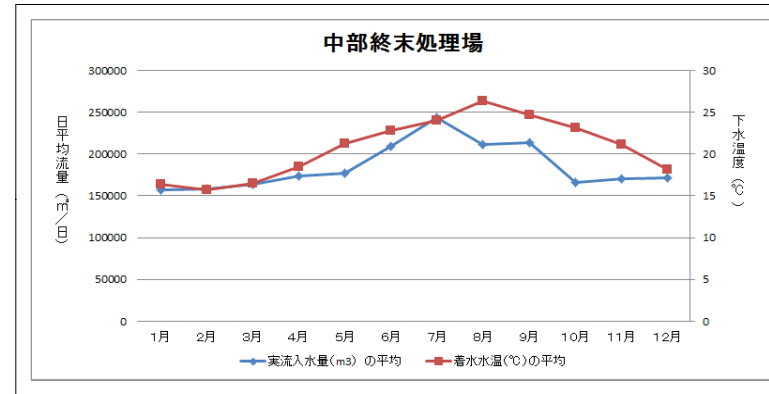
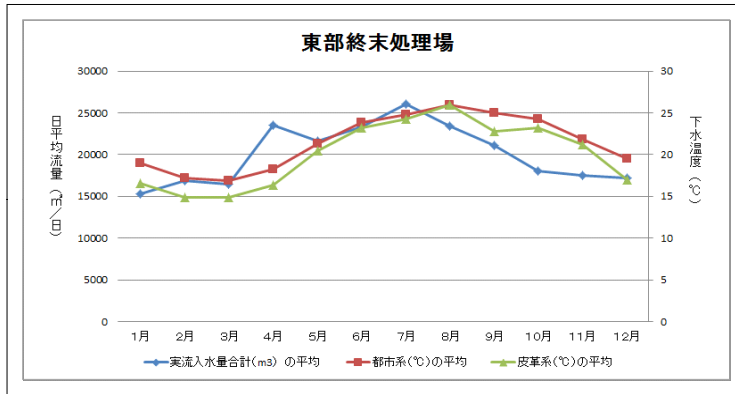
下水熱ポテンシャル (MJ/E)	住宅給湯負荷相当の世帯数目安
0 ~ 3000	0 ~ 100
3500 ~ 17000	100 ~ 500
17000 ~ 35000	500 ~ 1000
35000 ~ 170000	1000 ~ 5000
170000 ~	5000 ~

※ 本図は、建築物のエネルギー消費量を削減するための施策の効果を評価するためのツールであり、実際のエネルギー消費量は、建築物の構造、設備、運用状況、気象条件などによって大きく異なる場合があります。



【注釈】

- この下水熱ポテンシャルマップは、「下水熱ポテンシャルマップ(広域ポテンシャルマップ)作成の手引き」(2015年3月環境省総合環境政策局・国土交通省水管理・国土保全局下水道部)に基づき、下水道施設における下水流量測定値を基に、下水温度差5℃としてポテンシャルを推計している。
- 推計に用いたデータは、別表の通りであり、その後の変化は、反映されていない。
- 代表日のポテンシャルを推計しているため、降雨や融雪等の影響は考慮していない。
- 下水道施設における下水流量測定値を基に推計したポテンシャルであるため、大規模温浴施設等の近傍等では誤差が大きく生じている可能性がある。
- この下水熱ポテンシャルマップは、中部処理区及び東部処理区を対象に作成している。整備対象外の隣接処理区からの汚水流入量は、各処理区内で按分しているため、幹線管渠から離れる場所ほど、誤差が大きく生じている可能性がある。



項目	データ項目	年度
下水道台帳	管路・マンホール図形情報	平成28年度
	管路・マンホール接続情報	平成28年度
水道データ	水道メータ設置場所情報	平成28年度
	水道使用量情報	平成28年度
基本地形図	地形図データ	平成28年度
下水データ	下水流量(ポンプ場・処理場)	平成28年度
	下水温度(ポンプ場・処理場)	平成28年度

下水熱ポテンシャル (MJ/日)

- 0 ~ 3,500
- 3,500 ~ 17,000
- 17,000 ~ 35,000
- 35,000 ~ 170,000
- 170,000 ~

※28年度版のポテンシャル
 ※ポテンシャルは各地点で下水流量の全量を温度差5℃で熱利用した場合の推定値である。
 ※数値は有効数字2桁に丸めている。

住宅給湯負荷相当の世帯数目安

- 0 ~ 100
- 100 ~ 500
- 500 ~ 1,000
- 1,000 ~ 5,000
- 5,000 ~

住宅1世帯、1日当たりの給湯負荷相当熱量
 34.5[MJ/日・世帯]
 (住宅1世帯の延べ床面積を100㎡と想定)